

## 1. 令和四年度 活動報告

### 1.1. 委員会について

令和四年度は下記の体制にて活動した。

委員長：	古家賢一（大分大学）<IEICE>，	梶川嘉延（関西大学）<ASJ>
副委員長：	加古達也（日本電信電話），	小野順貴（東京都立大学）
幹事：	若山圭吾（日本電信電話，企画担当），	西浦敬信（立命館大学，会計担当）
幹事補佐：	中山雅人（大阪産業大学），	矢田部浩平（東京農工大学）
委員：	伊藤信貴（東京大学），	井本桂右（同志社大学）
	岩居健太（立命館大学），	岡本学（崇城大学）
	折本寿子（県立広島大学），	梶川嘉延（関西大学）<IEICE>
	北村大地（香川高等専門学校），	木下慶介（Google）
	小泉悠馬（Google），	小松達也（LINE）
	小山翔一（東京大学），	阪内澄宇（日本電信電話）
	佐々木陽（日本放送協会），	島内末廣（金沢工業大学）
	藺田光太郎（長崎大学），	武岡成人（静岡理工科大学）
	谷川将規（清水建設），	TREVINO Jorge（ヤマハ）
	羽田陽一（電気通信大学），	林田亘平（パナソニック）
	藤坂洋一（リオン），	古家賢一（大分大学）<ASJ>
	堀内俊治（KDDI 総合研究所），	松井健太郎（日本放送協会）
	水町光徳（九州工業大学），	宮崎亮一（徳山工業高等専門学校）
	森川大輔（富山県立大学），	渡邊貫治（秋田県立大学）

※ 敬称略・五十音順

### 1.2. 研究会について

令和四年度は全6回の研究会を開催した。5月と11月はオンライン開催、7月と12月は現地開催、及び、8月と3月は現地とオンラインのハイブリッド形式にて開催した。参加者数は、昨年度と比べて減少したが、講演件数と頁数は昨年度と比べて大幅に増加した。開催月日、開催地、テーマ、共催、講演件数、頁数、及び、参加者数を下表に示す。6月には、前年に引き続き情報処理学会音楽情報科学研究会音学シンポジウムに協賛した。11月には、前年度に引き続いて学生セッションを実施した。電気音響研究会学生研究奨励賞を選奨し、1名に授与した。12月は超音波研究会と併催で音響・超音波サブソサイエティ会議を開催した。音響・超音波サブソサイエティ学生研究奨励賞を選奨し、3名に授与した。3月研究会は第9回SPEASIP（音声・音響・信号処理ワークショップ）として開催、議論を目的とした発展途上の研究発表や研究紹介を想定した、ショート・オーラル発表（APSIPA Japan Chapter 主催）を新設した。

開催月日			開催地	テーマ (一般は省略)	共催*1	件数	頁数	参加者数
月	日	曜日						
4			休会					
5	13		オンライン	<オーガナイズドセッション> 応用/電気音響		13	67	29
6			休会					
	(17) (18)		(オンライン)		(情報処理学会音楽情報科学研究会音学シンポジウムに協賛)			
7	7 8		北大百年記念会館 (北海道)	応用/電気音響, 聴覚, 音声, 音楽音響, 音響教育	日本音響学会聴覚研究会 (ASJ-H)、音楽音響研究会 (ASJ-MA)、音声研究会 (ASJ-SP)、音響教育委員会共催	14	74	40
8	4 5		東北大通研 (宮城) +ハイブリッド	応用/電気音響, 聴覚	日本音響学会聴覚研究会 (ASJ-H) 共催	14	83	62 65
9			休会					
10			休会					
11	21 22		オンライン	<ビギナーズセッション>応用/電気音響, コンテンツ処理, 情報ハイディング, 聴覚	電子情報通信学会マルチメディア情報ハイディング・エンリッチメント研究会 (IEICE-EMM)、日本音響学会聴覚研究会 (ASJ-H) 共催	19	104	58 50
12	22 23		サテライトキャンパスひろしま (広島)	<音響・超音波サブソサイエティ合同研究会> 応用/電気音響, 超音波	電子情報通信学会/日本音響学会超音波研究会 (IEICE/ASJ US) (併催)	36	197	57 57
1			休会					
2			休会					
3	2/28 1		沖縄県立博物館・美術館 (沖縄) +ハイブリッド	<SPEASIP 音声・音響・信号処理ワークショップ> 音声, 応用/電気音響, 信号処理	電子情報通信学会音声研究会 (IEICE-SP)、信号処理研究会 (IEICE-SIP) 共催、情報処理学会音声言語情報処理研究会 (IPSJ-SLP) 連催	81	305	178
合計*2						177 (117)	830 (549)	596 (723)

\*1 APSIPA Japan Chapter は、毎月共催.

\*2 IEEE SPS Tokyo Joint Chapter は、毎月協賛.

\*3 ()内の数字は、昨年度の実績.

### 1.3. 研究発表会及び大会について

日本音響学会秋季研究発表会は北海道科学大学での開催、及び、春季研究発表会はオンラインでの開催で、前年度に引き続き盛況となり、下記の講演件数となった。

2022年秋季： 120件（うちポスター81件、共催を含む）

2023年春季： 74件（うちポスター37件）

合計： 194件（うちポスター118件、共催を含む）

また、電子情報通信学会ソサイエティ大会はオンラインでの開催、及び、総合大会は芝浦工業大学での開催で、下記の講演件数となった。

2022年ソサイエティ大会： 4件

2023年総合大会： 7件

合計： 11件

## 2. 令和五年度 活動計画

### 2.1. 委員会について

令和五年度の体制については、学会の承認が得られ次第更新する方針であるが、新幹事団としては、以下の体制を予定している。

委員長 小野順貴（東京都立大学）

副委員長 梶川嘉延（関西大学）、 西浦敬信（立命館大学）

会計幹事 若山圭吾（日本電信電話）

企画幹事 伊藤信貴（東京大学）※新任

幹事補佐 矢田部浩平（東京農工大学）、 中山雅人（大阪産業大学）

専門委員に関しては、以下の退任・新任を予定している。

[退任予定者]

羽田陽一（電気通信大学）、

堀内俊治（KDDI 総合研究所）

[新任予定者] ※3/29 現在

古家賢一（大分大学） <IEICE>、

加古達也（日本電信電話）

中村友彦（東京大学）

※ 敬称略・五十音順

### 2.2. 研究会について

令和五年度は全6回（オンライン、北海道、東北、北陸、中国・九州、未定）の研究会を開催する計画である。開催月日、開催地、テーマ、共催は下記のとおりである。また、例年通り6月には情報処理学会音楽情報科学研究会音学シンポジウムへの協賛も引き続き行う。音響・超音波サブソサイエティ合同研究会は本年度と同じく12月に開催し、ポスター発表でのサブソ学生研究奨励賞の選奨を従来通り実施する。

開催月日			開催地	テーマ (一般は省略)	共催*1	発表 件数 見込
月	日	曜日				
4			休会			
5	25		オンライン	応用／電気音響	単独開催	20
6			休会			
			(電気通信大学)		(情報処理学会音楽情報科学研究会音学シンポジウムに協賛)	
7			北海道	応用／電気音響, 聴覚, 音声, 音楽音響, 音響教育	日本音響学会聴覚研究会(ASJ-H)、音楽音響研究会(ASJ-MA)、音声研究会(ASJ-SP)、音響教育委員会共催	30
8			東北	応用／電気音響, 聴覚	日本音響学会聴覚研究会 (ASJ-H) 共催	20
9			休会			
10			休会			
11			北陸	<ビギナーズセッション>応用／電気音響, コンテンツ処理, 情報ハイディング, 聴覚	電子情報通信学会マルチメディア情報ハイディング・エンリッチメント研究会 (IEICE-EMM)、日本音響学会聴覚研究会 (ASJ-H) 共催	30
12			中国・九州	<音響・超音波サブソサイエティ合同研究会> 応用／電気音響, 超音波	電子情報通信学会/日本音響学会超音波研究会 (IEICE/ASJ US) (併催)	20
1			休会			
2			休会			
3			未定	<SPEASIP 音声・音響・信号処理ワークショップ> 音声, 応用／電気音響, 信号処理	電子情報通信学会音声研究会 (IEICE-SP)、信号処理研究会 (IEICE-SIP) 共催、情報処理学会音声言語情報処理研究会 (IPSS-SLP) 連催	60
合計*2						180

\*1 APSIPA Japan Chapter は、毎月共催予定.

\*2 IEEE SPS Tokyo Joint Chapter は、毎月協賛予定.

### 2.3. 研究発表会および大会について

例年通り、日本音響学会秋季及び春季研究発表会、及び、電子情報通信学会ソサイエティ大会及び総合大会のプログラム編成に関わる方針である。

以上